

令和 7 年度 第 3 回
東京都地域活動に関する検討会
速 記 録

令和 8 年 3 月 4 日（水）

東京都庁第二本庁舎 3 1 階 特別会議室 2 7

午後 1 時30分開会

○地域活動推進課長 皆さん、お待たせいたしました。ただいまから東京都地域活動に関する検討会を開催いたします。

私は事務局を務めます東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課長の沼倉でございます。よろしくお願いいたします。

本日の検討会ですが、お手元の資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」に基づき設置されておりまして、検討会設置要綱第 8 により、本検討会は公開とさせていただいております。御異論がなければ、検討会の議事録も公表させていただきますことを御了承願います。

なお、12月に開催いたしました本検討会の議事録につきましては、東京都のホームページにて公表させていただいております。

それでは、ここから検討会設置要綱第 5、第 2 項により、本検討会の座長を務めます生活文化局都民生活部長の柏原が進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

○座長 検討会の座長を務めます生活文化局都民生活部長の柏原でございます。

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本会は、都が東京の抱える様々な課題を解決するために、各町会・自治会連合会の皆様方と、行政区域を超えまして、都の行政課題ですとか、皆様方の取り組まれていることを共有させていただきますとともに、意見交換を行いまして、それを皆さんで共有していくということで、平成29年 3 月に設置したものでございます。本日も、忌憚のない活発な意見交換をよろしくお願いいたしますと思います。

では、ここから座って進行させていただきます。

続きまして、配付資料につきまして事務局から確認をさせていただきます。

○地域活動推進課長 本日は 5 点資料を配っております。資料 1 「東京都地域活動に関する検討会設置要綱」、資料 2 「東京都地域活動に関する検討会委員名簿」、資料 3 「座席表」、資料 4 「「地域とつながる若者フォーラム」について」、資料 5 「事前アンケート集計結果」の 5 点になります。過不足等がございます方は挙手いただければと思いますが、大丈夫でしょうか。御確認、ありがとうございます。

また、本日は、座席に設置されておりますマイクを使用いたしますので、御発言いただく際には、目の前にございます右側のボタンを押してマイクの赤い光を御確認いただいた上で発言をお願いできればと思っております。また、随行の事務局の方に御発言いただく

場合は、事務局の者がハンドマイクをお渡ししますので、よろしくお願いいたします。

○座長 本日でございますが、資料2にあります委員の皆様のうち、1番の千代田区さん、2番の中央区さん、16番の豊島区さん、18番の荒川区さん、21番の足立区さん、29番の調布市さん、33番の多摩市さん、34番の稲城市さん、38番の新島村さん、39番の都町連、以上の10名の委員の皆さんが欠席となっております。あと、今の時点でまだ遅れていらっしゃる委員の方もいらっしゃいますが、その方につきましては欠席の連絡を頂戴していませんので、この後御参加になると思いますので、お待ちいただければと思います。

それでは、本日の次第に入らせていただきます。

本日の議題は「若者を巻き込む地域活動活性化の取組みについて」でございます。

町会・自治会におきましては、役員の高齢化等による担い手の不足、若者を中心とした加入率の低下といった課題がございます。このような中におきまして、東京都では、本年度、若い方にも地域活動を自分事として捉え、興味を持っていただくきっかけづくりとなりますよう、「地域とつながる若者フォーラム」というイベントをこの新宿と立川の2か所で開催をさせていただいております。本日は、このフォーラムの実施概要を御説明させていただきますとともに、連合組織または加入されている町会・自治会が実施されている若者を巻き込む地域活動の活性化に向けた取組や事例等について意見交換をいただければと思っております。

それでは、事務局から御説明いたします。

○地域活動推進課長 それでは、まずは「地域とつながる若者フォーラム」の概要について御説明をさせていただきます。お手元にあります「地域とつながる若者フォーラム」と書かれた資料を御覧いただきながら説明を聞いていただければと思います。

まず、こちらのフォーラムの事業概要ですが、このフォーラムは、都民に地域活動を自分事として考えてもらうきっかけづくりとするために開催いたしました。今年度、東京都の予算の事業提案制度により都民の方から提案を受け、投票により採択されて予算化された事業となっております。若い世代が地域活動に関心を持ちにくいという現状を踏まえて、まず若者から、誰もが気軽に地域活動に参加できるアイデアを募集しました。そして、アイデアをフォーラムの場で発表いただくとともに、アイデアについて町会関係者、有識者とディスカッションいただきました。

開催概要を御説明いたします。まず、フォーラムは、今座長より話がありましたとおり区部、多摩、それぞれで1回、計2回実施をいたしました。区部では、12月7日に都議会

議事堂の都民ホール、多摩地域では、1月18日に立川市のアイムホールで開催をしております。

内容は、前半に、東京都立大学の和田名誉教授から、東京都が令和5年に実施いたしました町会・自治会活動に関する調査を基に、町会・自治会の現状と若者に期待することを基調講演で頂きました。続きまして、誰もが気軽に地域活動に参加できるアイデアを提案いただいた若者から発表を頂きました。後半は、和田先生、アイデアを提案していただいた方、ゲストである若者から人気のあるお笑い芸人のラランド、ニシダさんに加えて、町会関係者として、区部では東京都町会連合会の吉成会長、多摩地域では、立川市自治会連合会の西手会長に登壇いただきまして、提案いただいたアイデアについてパネルディスカッションを行いました。

吉成会長と西手会長には、お忙しい折に本フォーラムに御参加いただきまして、この場を借りて改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、区部、多摩地域、それぞれの若者の発表の概要、パネルディスカッションの様子を御紹介させていただきます。

まず、区部、2ページ目を御覧いただければと思います。区部では3組の若者のグループから発表を頂いております。

まず1つ目の立教大学の阪口ゼミです。こちらからは「大学生は地域のサポーター！自治会との協働プロジェクト」というタイトルで、夏祭りをはじめとした団地自治会のイベント運営、役員会に大学生が参加するという提案を頂きました。立川市の大山団地の自治会行事に参加をしながら、地域コミュニティの現状と課題を調査研究する立川プロジェクトの取組を紹介いただいております。

若者の自治会参加率の低下という課題に対しまして、大学生が行事の運営に参加することにより、若者の地域活動や自治会の加入促進につなげることができ、複数の大学の学生が参加するインカレ形式の仕組みであったこともあって、世代交代を経ても地域活動に関わり続ける持続可能なモデルとなっておりました。地域住民が学生と関わる仕組みですとか、大学同士の連携など、他の地域でも導入可能な地域活性化のケースとなっていたと思います。

続きまして、立教大学災害復興支援団体Three-Sです。こちらについては、「Re:CONNECT TOKYO」として、もし〇〇という災害が起こったら、という状況を想定して、参加者がチームで協力して災害を乗り越える体験型サバイバルゲームを実施する

という提案を頂きました。災害時に起こり得るトラブルが発生する中で、参加者がチームで課題解決に挑むゲーム形式の取組で、ゲームの中では、警察、消防など防災機関に加え、町会などの地域の役割の紹介も行います。

町会には、地域が抱える防災体制の実情を共有し、ゲームの内容に地域のリアリティを与える役割を担っていただくことが想定されています。サバイバルゲームという楽しさ、参加しやすさを重視することで、若者の参加を促すことができるとともに、災害時の役割を知ることで町会の必要性を実感、加入促進につなげるというふうな御提案を頂いております。

続きまして、NPO団体MURPからは、「「世代や地域の壁を飛び越える」学生発信の取り組み」として、地域イベントの企画運営、行事への参加、広告物等の制作を通して、「人と人、まちと人をつなぐ」という提案を頂きました。若者の加入、役員の担い手が不足している状況に対して、学生が主体となって企画運営を行うとともに、学生たちがデザイン、制作に携わり、イベントを支える、広報するという立場から参画をしていくというものです。

イベントに参加するだけでなく、若者がデザインに携わり、イベントのバックアップに若者の視点を入れるといったまた違った角度からの提案を頂いております。継続して使い続けられるデザイン制作に若者が携わることで、世代を超えた地域への愛着が生まれ、加入促進につながるような提案を頂いております。

ディスカッションについての御説明をさせていただきます。吉成会長にも御参加を頂いたディスカッションでは、若い人は楽しいと思えることに参加してくれるため、若い人が楽しそうと思える活動にすることが、若い人の参加を増やすために重要になるという御意見を頂きました。

また、吉成会長からお話いただいたものですが、地域活動に協力できるときだけ協力するサポーター制度など、地域活動への関わり方のバリエーションを増やしていくことも必要だという話も頂いております。

さらに世代間で考え方にギャップを生じることがあるため、しっかり話し合っ、相互理解、信頼関係を構築することが大切というコミュニケーションの重要性についても言及されております。

ここで、当日参加いただいた吉成会長にも御感想を頂ければと思うのですが、会長、御発言いただいてもよろしいでしょうか。

○副座長 私が参加した報告をさせていただきます。

私が参加した都民ホールで開催した若者フォーラムは、今お話があったとおり、3団体から、どうやったら若者が町会・自治会の活動に関われるかなどの発表がありました。若者らしい視点で考えられていて、すばらしいものでございました。今回発表いただいた方々も、現在活動している地域から、将来的には地元でもできたらとおっしゃっていたので、取組が広がっていけばいいなと感じました。

私が地元で会長を務めております中野区が多田町会のサポーター制度についても説明させていただきました。2月の都町連常任理事会でもちょっとお話ししたと思うんですけれども、どうしても時間的な制約があって町会の活動に参加するのは難しいといった学生さんとか若い方が、町会に加入するにはハードルがあるといった場合があるかと思いますが、そのような場合には、多田町会では、サポーターとして参加していただくという選択肢がある。参加のハードルを下げることにつながるかと思います。

2月に言ったとおり、どこの地域でも防災訓練をやっておりますので、そのときに、皆さん、参加してくださいと若い方々に言いました。そして、若い方々には、私はどこどこにいる者ですが、参加させて下さい。何かお手伝いございますかと言っていただきたい。町会の方々は、快く引き受けて、若い方々に町会活動に参加していただくことの流れをつくっていただければ、こう思っております。以前、都町連常任理事会の折に、若い人から、町会活動に参加したい、お手伝いしたいと声をかけていただいたら、皆さん、どうか快く受け入れていただくよう、お伝えしました。皆さんにお話するのは2度目のことですけれども、よろしくお願いします。

以上、私からの感想です。

○地域活動推進課長 吉成会長、ありがとうございました。取っつきにくいとか、入りづらいみたいなハードルをどうやって下げて加入につなげるのかという話になった際、若い方、参加いただいた方からは、それが楽しいというイメージを持っていただくとか、やってみようかと思うようなものを町会の皆さんにつくっていただくことが若い方の参加につながるというふうなディスカッションもありましたので、ぜひ先ほどの吉成会長の御発言なども参考にいただければと思っております。

続きまして、多摩地域についての内容も御説明させていただきます。3ページを御覧いただければと思います。

多摩地域では、2組の若者のグループから発表を頂きました。

まず、持続可能な日野の未来を創る高校生チーム「ひのミラ」です。こちらの「ひのミラ」からは、学生を中心に様々な年代が出会い、相互に学び合い、地域課題に対して実際にアクションを起こせる場をつくる取組の提案を頂きました。この写真、結構変わった写真が載っていますが、地域のゆるキャラの認知度を高めるために、このゆるキャラが、ラップバトルみたいなものを作って、若い方が楽しいと思うようなイベントを立ち上げたという企画提案をいただいています。

また、高校生を中心として、学生が参加していただくということで、当日も大学生に加えて高校生の方も発表者として加わっていただきました。地域課題をそれぞれの学生の皆さんで自分事として捉えることができる、そういうふうな学びの場をつくっていくということが、高校生などが町会に加入したいというきっかけづくりになるのではないかと思います。

続きまして、しなデジ、一般社団法人モノづくり×プログラミングfor Shinagawaという団体です。こちらからは「若者のデジタルスキルで町会アップデート」という提案を頂きました。地域の若者が町会・自治会のオンライン化、例えばオンライン配信ですとか、動画制作、いろいろなイベントの企画などのサポートを実施するような提案を頂いております。

イベント運営などのノウハウが町会・自治会の関係者の個人の経験に依存してしまってマニュアルが整備されていないとか、やる方が一緒に固定化してしまうとかということに対して、地域の若い方が映像マニュアルなどを作成して、ノウハウを継承することで、持続可能な取組にしていくというアイデアを出していただいております。若い方にとっては、デジタルスキル、自分が持っているデジタルの能力を生かした上で、地域の方々から感謝されるという経験が、自信を得たりですとか、地域活動への参加意欲が高まるという話も頂いております。また、町会にとっては、若い方の参加によって、新しい視点と活気が生まれることですとか、デジタルを活用して活動内容を分かりやすく発信することで新規の住民や若い方の参加促進につながるような形の御発表を頂いております。

ディスカッションについては、西手会長に参加いただいたところなんですが、こちらでは、会員に限定をしないで、地域の若者、企業などを巻き込んで、地域活動を活性化させていく重要性についてお話を頂いております。

また、一部で見られる高圧的な言葉遣いは若者の参加意欲をそぐことになるため、町会・自治会側が若者を受け入れる姿勢を持つことが不可欠というお話を若者視点で頂いま

した。若干厳しい言葉だったのですが、その方のお話ですと、結構上から高圧的な感じで接せられてしまい、次に行くのはどうかなと思われたというふうなことをおっしゃるような若い方がいたということです。10代、20代の方のことも温かい目で迎え入れていただけるといいのかなと、若い方からの話を聞いた上で感じたところです。

また、このしなデジさんの提案を受けて、デジタルを活用することというのが町会・自治会活動に参加するハードルを下げることになるのではないかというお話も頂きました。今年度、東京都はデジタル回覧板ですとか、町会費徴収のデジタル化なども支援をしていますが、うまくこのデジタル化を活用することで、若い方とか町会・自治会活動への参加のハードルを下げることをやっていただければいいかなと思います。

また、高校生の発表者の方からは、町会・自治会への入り方が分からないというお話ですとか、お堅いというイメージがあるので、もう少し楽しいと思える活動が参加のきっかけになるのではないかという提案を頂いています。これは、先ほどの新宿とも共通した意見になっております。

急ぎ足で御説明してしまいましたが、以上が今回の若者フォーラムの概要の御説明になります。我々にとっても非常に厳しいお話もあったのですが、全体を通しまして、若い方から、町会・自治会を盛り上げていくためのアイデアですとか、町会・自治会に対して思っていることを聞く機会というのは、貴重な機会になったのかなと思っています。

今話したことですとか、今日お配りした資料なども御参考にされまして、今後、また若い方にどうやって町会に加入してもらうか、参加を促していくのかということにつなげていただければと思っています。概要については特設サイトにも掲載しております。ぜひ御覧いただければと思います。また、フォーラムの当日の様子は、特設サイトでダイジェスト映像としても載せております。短い時間のものではございます。よろしければ御確認いただければと思います。また、映像については、今週中にアップをする予定ですので、もしだけお待ちいただければと思います。

以上をもちまして、若者フォーラムの概要の御説明となります。ありがとうございます。

○座長 これにつきましても、意見交換を後ほどまとめてやらせていただきますので、続きまして、先日行いましたアンケートの結果等についての御案内をさせていただきたいと思います。

○地域活動推進課長 続きまして、お手元にお配りしております「事前アンケート集計結

果《若者を巻き込む地域活動活性化の取組みについて》」の御説明をさせていただければと思います。

まず1点目として地域に住んでいる若者の町会・自治会への加入状況について御質問させていただきます。分からないという回答が50%でしたが、分かっているという回答の8割強が加入していないという形になっております。分からないという回答が5割になってしまっているのが非常に気になる場所ではありますけれども、それぞれの町自連さんの中でも状況が異なるため、このような回答になってしまったのかなと思っております。

また、関心がない、負担になっている、なぜ加入しないのかという要因については、非常に多くの団体さんでも、若い方が町会に関心がないとか、参加することが負担になっているという回答が多く寄せられています。

その他の回答としては、育児、仕事等で余裕がないですとか、役員になることの負担が大きいというような御意見も頂いております。

次のページも御覧いただければと思います。役員の高齢化・担い手不足については、全て38の団体さんから、課題と認識しているという回答を頂いております。

続きまして、若者に加入してもらうための工夫という御質問をしております。8割強の連合会のほうで、何かしらの取組を行っているような回答を頂いております。一番多かった回答として、デジタル化の取組が一番多かったです。若者加入促進策として、東京都のほうでもデジタル化を進めておりますが、これは今既に連合会のほうで進めていらっしゃる取組とも非常に方向性が一致しているんじゃないかと思っています。

また、PRの取組ですとか、見える化など、SNSやホームページの活用なども非常にやっけていただいているのかなと思っています。

一方で、チラシやポスターの掲示など、まちなかで目に見える形での掲出方法もとられているという回答も頂いております。

また、今年度から、東京都では「東京都 かわら版」という取組もやらせていただいているので、デジタルとアナログ、ぜひ両方いいところを活用いただいているのかなと思っております。

この辺りのことについては、荒川区の事務局さんに御説明いただければと思っているんですけれども、東京都も使っているような電子申請システムであるLoGoフォームを加入の申込みですとか受付に活用されていらっしゃるというところなので、その先進的な取組として御説明いただければと思いますが、荒川区の事務局の方、お願いしてもよろしいでし

ようか。

○荒川区 荒川区区民課の関沢と申します。本日会長欠席のため、事務局のほうから取組を紹介させていただきます。

LoGoフォームを含めた若者に加入してもらうための工夫、デジタル化全般を説明させていただきます。町会連合会のほうで、役員の負担軽減と、活動内容の見える化、この2点が大きく若者を巻き込むための鍵だと考えていまして、若い世代は地域に関心がなかなかないように見えるんですけれども、ただ、情報が届いていなかったり、活動内容が見えない。あと加入や参加の方法が分かりづらい。あと役員になると大変そうといった心理的なハードルがあるんじゃないかと考えて、町会のデジタル化を通じて、これらの課題解決に今取り組んでいます。

具体的な取組の1つが、LINE公式アカウントの活用です。各町会がアカウントを開設して、防災訓練だったり、イベント情報、回覧情報などをタイムリーに配信できる仕組みづくりを今支援しています。区がサポートをして、初めはほとんどなかったんですが、1年後には約20町会ほど、2年後には30町会ほどが、まずは始めてみようということで始めてみて、さらに今30町会が導入に向けて検討を始めている状態です。全120町会のうち約半分がデジタル化に向けて動き出すまでに広がっています。

LINEはもう日常的なインフラになっていますので、回覧板を取りにいくというのではなく、スマートフォンに届くという仕組みに転換することで、情報との接点を大きく広げています。

また、話にありました専用フォームによる町会加入の申込みの受付も進めていまして、今までは基本的には対面、あと電話での申込みということだったんですけれども、現在はLoGoフォームからいつでも申込みいただくような形をとっています。また、そのフォームの二次元コードを、町会加入啓発のチラシを作ったりしているんですけれども、そういったチラシ、ポスターだったり、あとは加入の啓発グッズというのも今年作ったんです。そういったところ、あと区報、そういったところに印刷して、思い立ったときに、その場で申し込めるという環境を整えています。若い方は、説明を受けて後日申し込むということよりも、その場ですぐ完結できる仕組みのほうが参加しやすいのかなと思ひまして、デジタル化は有効な手段だと考えています。

あと区のホームページに、各町会のホームページだったりSNSのリンクを掲載していまして、これにより、どんな活動をしているのか、どんな雰囲気なのか、どんな人が関わ

っているのかを事前に分かるようにしています。事前に雰囲気分かるということは、若い方にとっては大きな安心材料になるのかなと考えています。

また、東京都つながり創生財団さんの腕きき掲示板の事業も活用させていただいてまして、そちらも効果がありまして、この事業を通じて人材の募集を行った町会では、ハロウィンイベントの運営ボランティアとして、若い世代が5名参加しました。これまで町会と接点のなかった若い方がイベントをきっかけに地域活動に関わるようになり、当日は受付ですとか誘導、あとは装飾の準備なども活躍していただきました。こういった単発のボランティアでも、地域とつながる最初の入り口になったのかなと思います。

このように町会の見える化はすごく安心感につながるのかなと思ひまして、こういったどんどん活動を外に開いていって、若い世代にとって参加しやすい地域をつくるということを今後荒川区町会連合会として目指していきたいと思っています。

以上です。

○地域活動推進課長 荒川区さん、ありがとうございました。

参考に、今日お越しにいただいている会長の皆さんとか区市の皆さんにお聞きしたいんですけれども、対面以外で町会の加入の申込みができますという区市さんはどれぐらいありますか。恐らく最近ホームページを通じて申込みができますとか、はがきを通じて申込みができますという区市さんは結構増えているんですけれども、皆さん、大体できるようになっていますか。

やっていますという皆さん、手を上げていただけますか。区市の皆さん、後ろの事務局の皆さんが手を上げていただいたようなんですが、大体やっていますね。

対面での加入とかがハードルが最近高くなっていて、特にマンションの住民が増えたこととか、あと家のセキュリティが非常に厳しくなったりとかということで、新しく越してきた方を訪問して、入ってくださいという御説明をして、入ってもらうという接触自体が、お話を聞いていて、難しくなったということがあって、それを下げるために今荒川区さんがお話しされたようなオンラインといったインターネットを通じた加入の申込みとか、あとインターネットを通じて、町会はこんなことをやっていますということをお知らせするみたいな取組は結構いろいろな区市さんでも広がっているのかなと思っています。

その辺り、事務局の方でもいいですし、会長、うちはこうやって工夫して、加入とかの働きかけとか、そういう仕掛けはありますといったことは何かありますか。LINEとかは結構やっていらっしゃるとお聞きしました。ほかに何かこういうものでやっていますと

何かありますか。デジタルのツールとか。

○八王子市 今途中なんです。途中なんですけれども、ここで始めたことが1つあります。それは、今現在、私どもの町会の地図、これをA1に拡大しまして、これを基に、今現在お住まいで町会に入っていない方、この人たちを対象に1から洗い出そうということで、全部地図の上に落としました。その地図の中で、誰がここに加入のお願いにいくのかということもありまして、かなり大きな所帯ですから、これを地区の班が42班あります。その42班の班長さんを中心に、あと役員がついて歩く。

そのときに、ただ直接行ったのでは駄目ですから、その前にお手紙を出しましょうということで、お手紙に、今うちの町会はこういうことをやっています。これを一人一人役員から全部吸い上げたもの、ダブってもいいですから、同じことを全部吸い上げて、それを1つにまとめて、いざというときの災害時のときが一番これが効果があるのかなという形ですけれども、お祭り、盆踊り、餅つき大会、そのほかミニ講演会、こういう今現在やっているものを全て書き出して、何月にはこういうことをやっていますと。

そして、何せ地域の人間と触れ合い、そして、その御近所付き合いができる態勢にしておかないと、会員になっても何のメリット也没有。災害時のときにはこうですということを書いたものを今作り上げたところです。それを今度は入っていないお宅に全部配布します。それで、何月から何月にかけて、皆様のところにまたあと一回加入をしていただける御相談に上がりますということまで作り上げました。

今これを持ちまして、どこまでいけるか分かりませんが、これはかなりいいアイデアが出た。これで町会を全部当たろうと。これはまた、次のときにお話しできると思うんですけれども、今現在では、まだこの段階なんです。でも、この一つ一つの段階を越えていかないと、最後のゴールにはいかないと思うので、今これを皆さんで練り上げた文章を町会に入っていないお宅に配布をします。それで、その後、担当の者が行って御説明して入っていただくようにする予定になっております。これは、あくまでも予定です。上手にこれが事が運んだ暁には、ここで堂々と発表させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○地域活動推進課長 秋間会長、ありがとうございました。今会長がお話しされたことは非常に重要な話で、ここの中でもいろいろな取組は例として挙がっているんですが、町会・自治会に入るメリットとか、何で入るんだということをしっかりと地域の方に分かっていただくということは非常に大事で、それを地域の住民の方、ある意味、しらみ潰しの

ように丁寧に御説明していくというお話だったのかなと思っています。

今回のアンケートの中でも、イベントの中で声をかけるとか、区民祭りでいろいろなことをやりますというほかにも、ポスターですとか、いろいろなリーフレット、チラシなどを活用しながら、申込方法ですとか、町会・自治会の活動を紹介していらっしゃるようなところは非常に多くやっていたらっしゃっています。この間、私は若い方と話す機会があったのですが、最近まで町会・自治会という活動をあまりよく分かっていなかったですとおっしゃっていたんです。やはり接点がなかったし、地域でそういうことをやっているということが分かっていなかったですという話を頂いたんです。

それというのは、日頃若い方同士で遊んだりとか、日常生活の中だと、町会・自治会活動は目の前にないというところが多分あるので、知らないとか分からないということが多かったんだと思うんです。なので、今秋間会長がおっしゃっていたように、丁寧にいろいろな地域の方にいろいろなものを配って知らせていただくとか、さっきの荒川区さんのほうでも、LINE公式アカウントとか、デジタルを使ってPRをしていただくということをやっていたいていましたが、様々な方法を使って、町会・自治会活動をやっています、これは、地域の皆さんとか住民の皆さんのものとしてやっていますということをしっかりPRをしていくということが重要なんだというのは改めて思いました。

会長、うまく話が進みましたら、また、こちらの場で御説明いただければと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○八王子市 承知いたしました。

○地域活動推進課長 続いて、また御説明を続けさせていただきたいと思います。

町会・自治会の取組の紹介などの見える化ということも非常に大事だということで、いろいろな御意見を頂いております。人が集まるお祭りとかイベントでチラシを配布したりとか、声かけをするような取組をやったりですとか、その後、オンライン、ウェブサイトなどを通じてPRするようなこととかもやっていたいていたという回答を頂いております。どこの区市とか連合会でも、ホームページですとかを作っているいろいろなPRとかをされていていらっしゃるのかなと、このアンケートでも見ていて思いました。

あと若い方が参加しやすいようなイベントをやっていくというところで、以前お話ししたハロウィンとかは、最近町会・自治会活動の中では、今までの餅つきですとか夏祭りとかと併せて、若い世代の方が入りやすいようなイベントとしてハロウィンイベントみたいなものが増えているというのは私たちのほうでも認識をしております。

また、渋谷区さんのほうからは、夏休みの模擬店についてを地元の大学生とか高校生、中学生が企画運営する取組をやっていますということも回答いただいております。この辺りのことを渋谷区から御説明を頂きたいんですけれども、お願いしてよろしいでしょうか。

○渋谷区 渋谷区町会連合会事務局、鬼沢です。

あまり珍しい話ではなくて、今若者フォーラムで報告があったとおりなんですけれども、一応単組の町会とか、地区連合会での行事における児童、生徒、学生の参画事例をお話をさせていただこうと思っています。

夏祭り等の行事について言うと、学生が中心になって、主催は町会です。3つの町会が連合して行うようなところにテントを8張りぐらい、学生、子供たちが企画したものについて、スタンプラリーみたいな形で、ストラックアウトとか、大きいくじ引きとか、そんな形で参加しています。子供たちの企画、小学校の高学年から大学生まで、多くの子供が係員として関わります。予算から賞品とか、そういうものについても子供たちにお任せ、1張り5万円で予算を組んで、大人たちがその買物等にお付き合いです。ただ、企画運営については子供たちという形になっています。

これは、昨年が第30回夏祭りということでやっていますので、相当歴史があって、この地域の子供たち、行く行くは模擬店のリーダーになろうということを目指したり、もっと大きく言うと、町会の役員を担ってくれるといいなと勝手に思っています。

昨年で言うと、私の6歳と4歳の孫を連れていって、1時間私の元に帰ってこずに、ゲームコーナーのところでお兄さん、お姉さんにくっついて楽しんでいたということがあります。このような取組ができる背景というのが、渋谷にも、御多分に漏れず、小さいんですけれども、子供会があったり、子供の希望を聞き入れる町会の体制があったりしているのかなと思っています。

また、PTAと町会の連携が非常にうまくいっている事例もお話をさせていただきます。

渋谷区には、渋谷の日といって、4月28日なんですけど、区全体が清掃活動する日があります。そのときに、学校と町会、PTAが合同で、初めに町会別、子供たちも町会別に分かります。自分の町会がどのエリアなのか、町会長の顔がどんな顔をしているのか、そういうのを認識させて、自分の町会区域の清掃活動をします。このような地区は、町会の人々の顔が分かって、日常的に、この間、お掃除したおじさんだと言って、そういうのが分かったり、行事に子供たちの企画運営がすんなり入っていくというようなことになります。

ふだんからの町会との関わり方が良好な関係にあると、若い人たち、若い親たちも参加し

やすいと感じています。

また、余談なのですが、渋谷区には大学も多くあります。町会が設置した花のハンギングバスケット、フラワーガーデンの管理を町会、学生さんが一緒に行っている町会もあります。こうした関係性があることで、行事があると、学生の皆さんがマンパワーを発揮してくれるという好循環が生まれているかなと思っています。区が町会と大学をコーディネートしているという事例もあり、行政の関わりが後押しになっているケースも見られます。どの町会においても、若い人たちと関わるきっかけを少しでもできればと、行事を工夫し、継続的につながっていくことが大切だと感じています。

私からの報告は以上です。

○地域活動推進課長 渋谷区さん、ありがとうございました。地域にいろいろな高校ですとか大学とか、中学、小学校、いろいろな学校があると思うんです。そことどうやってうまく関係をつくって、その学生さんとか児童を町会の活動に巻き込んでいくか、引き込んでいくかといういい事例なのかなと思いました。

今、私は渋谷区さんの発表を聞いていていいなと思ったのが、1回接点を持つと、あの子どもの人だみたいなことが分かっていただけるというところ、そこが接点が生まれていて、挨拶をしたりとかというのは、そういうのは非常に大事な取組なのかなと思いました。御説明ありがとうございました。

そのほか、いろいろな餅つきですとか、あと仮装して夜警をしますとか、あと子供が喜ぶようなイベントをやったりとか、あとは専門的な非常に様々な、太陽光、蓄電池を使ってSDGsを目指した盆踊りですとか、ドローン活用とか、いろいろな様々な取組をやったりですとか、あと次のページ、小さなお子さんを対象としたイベントとかをやっていたりとか、様々なイベントなどをやっていたっていました。

何かこの辺り、若い方が参加いただけるようなイベントのこととかで、うちの区や市はこういう取組をやっていますと御紹介いただけるようなところは……。

○江戸川区 江戸川区です。

江戸川区の場合は、連合町会がございまして、各町会で連合町会の運動会を行っており、町会対抗の運動会を行っています。私のところは、10町会がまとまって町会対抗運動会ということで行っております。それで、各町会が、パレードに参加するのが大体50人ぐらいから70～80人がパレードに参加します。その中には、子供たちが入った場合は100人近くでパレードになって、10町会がパレードし、最後に地元にある消防団の方々が制服を着て

パレードに参加して、地域の皆さんの最前線で活躍している消防団が地域にありますということで、消防団のアピールもしながら運動会を開催しています。

町会対抗の運動会でございますので、町会員関係なく、町会に住んでいる人が選手として参加するという形で行っております。そうすると、町会に入っていないんですが、あそこのお父さん、足が速いから町会対抗に参加してもらおうということで、参加することによって、それから、そのお父さんが町会の役員として入っていただくという顔の見える関係をまず大事にしてその運動会を行っております。これは江戸川区全体で、各連合町会で運動会を行っております。

まず、町会が何をやっているか分からないということ、これは新しく越してきて住んだ方々が、本当に町会というのは何をやっているんだろうというのが分からないというのが、まずあると思いますので、まず顔の見える関係をつくり、話し合いによって、町会はこういうことをやっているんだということを分かってもらえるような形で行っておりますので、まず運動会が1つ。

それから、江戸川区においては、全体でやる江戸川区民まつりというのもありますけれども、各地区におきまして、各地区の合同のお祭り、これが17箇所です。全体で行います。それも大変多くの地域住民の方々が参加するお祭りでございます。場合によっては、警視庁から騎馬隊が出て、お馬がパレードに参加してもらおうとか、そういうようなお祭りもございますし、そのほかに、各町会で行う夏祭りというのがあって、江戸川区というのは何でこんなにお祭りが多いんだろうかというほどお祭りを行っております。

やはり顔の見える関係が一番大事だと基本で考えておりますので、地域社会をつくるのが行政でも何でもなく、地域住民が先頭になってつくる。そういう地域社会をつくろうというのがもともとの江戸川区の行政からの指導でございましたので、そういう形で江戸川区の場合は行っております。

町会の加入率というのが50%いくかいけないかという大変低い地域社会でございます。先日、つながり広場ですか、あれで報告させていただきましたけれども、子供たちが安全に通学できるようにということで、町会の役員が交通整理に出たり、皆さん方が一緒にやろうということで、いろいろなお祭りや何かに一生懸命力を入れているという報告がありましたので、地域社会づくりというのは、地域があつての地域社会づくりでございますので、行政はそのバックアップをしていただくということで、江戸川区からも大変大きなバックアップを頂いております。顔の見える関係、これが大事だということではないかと思

います。

○地域活動推進課長 江戸川区さん、ありがとうございました。会長から頂いた話の中で、運動会をやっている中で、足の速い町会の会員じゃない方を引き込んだというエピソードは非常に面白いなと思いました。何かのきっかけで町会に入っていただくという意味では、そういうスポーツとか運動みたいな行事の中に、地域の方に関心を集めて入っていただくというのも非常にいい取組かと思いました。ありがとうございました。

ほかに何か。

○府中市 府中市、山岡でございます。

あまり関心を持っていない層の1つに、お母さん方がいるんです。子育てが忙しい、それから、いろいろなことで忙しいということで、関心を持っていないんですけれども、お母さん方の中にはお子さんがいるわけです。ここに目をつけようということで、一昨年からは、お母さん方の興味があるところは料理だということで、ただ料理を教えるのでは意味がない。災害に備えて、自宅待機をするけれども、自宅の中にあるものだけで、しかも、火も使わない、何もできないんですけども、完全ではないですけども、何とか食べられるようなことができるというレシピなどを作りまして、それでやりましたら、思いのほか集まってきます。

必ずそのときにはお子さんも来るんですけども、そういうことを通して、自治会というのはこんなことをやっていたかなと女性の立場から見ていただくということで、府中市は11の文化センターがございますので、文化センターでその周りの住民に来ていただく。特に女性ですけども、来ていただいて、料理などをするときに使う場所、そこで災害食を作ろうと。思ったほど皆さん方は興味を持ってもらっています。今までに外でもやったのを含めて2年間で500ちょっとお母さん方に来ていただきました。

これは、興味を持っているいいイベントかなと思ひまして御紹介したわけですけども、レシピのパンフレットも作りまして。欲しいということで、また1,000部余計に今作る予定なんですけれども、そんなところで意外と穴場かなと思ったりしたことを御紹介申し上げました。

○地域活動推進課長 会長、ありがとうございました。実は、令和8年度の地域の底力発展事業助成の中では、子育てと併せて女性の取組とかを応援するというメニューも入る予定ですので、今府中市さんから御説明いただいたような女性の方の関心を得て、災害時の料理教室みたいなもの、意外にそういうところに集まったという例は非常にいい例なのか

なと思っております。御説明いただきましてありがとうございました。

そのほか町会・自治会運営のスリム化ですとか、会員の負担軽減ですとか、いろいろな発信ですとか、いろいろなことをやっていただいているということも御報告を頂いておりますので、ぜひ後で読み返していただければと思います。

次のページの4の加入世帯・住民以外の若者の連携・協力ということで、先ほど吉成会長からもサポーター制度の話も頂きましたけれども、38の連合町会の中では、加入世帯、住民以外の方に対しての連携・協力する仕組みがあるのかどうかということもお伺いをしております。こちらについては、半数ぐらいでは、特にありませんという御回答を頂いていましたけれども、加入世帯、住民以外の方にすぐ入っていただくことというのはちょっとハードルが高いとか、難しいと考えていらっしゃるようなところもあるのかなと思いました。

ただ、15の連合会からは、地元の学生などにボランティアスタッフとして参加してもらうような仕組みがありますという回答を頂いております。地元の学生スタッフということでは、いろいろなイベントですとか、さらに参加いただくだけではなくて、意見とかアイデアも伝えるような機会を設けていたりするような町会もありますという話も頂いています。

次のページをおめくりいただきまして、地元の大学のサークルやNPOなどと連携をしていて、もっとさらに踏み込んだ連携をされていらっしゃるような連合会さん、町会もあったというお話を頂いています。その中で、町田市さんのほうから、来年度、大学と連携をして、授業を進めるということですか、あとデジタル化支援を進めるというお話も頂いておりますので、ぜひこの辺りのことを御説明いただければと思うんですが、よろしいでしょうか。

○町田市 町田市の高橋でございます。

詳しくは事務局のほうから御報告させていただきます。

○町田市 事務局の町田市役所市民協働推進課の小林と申します。よろしくお願いいたします。

今回の大学連携の事例につきましては、地元の桜美林大学と市の連合会長を務めます高橋会長が地区長を務めている忠生地区の町内会・自治会連合会、そして、町田市の3者で取り組んでいく連携事例となります。桜美林大学の授業として、2026年度の後期に、まだ仮称ですが、「自治会から地域を考える」をテーマとしまして、忠生地区の5つの自治会

の協力の下で、座学や実践を通して自治会を学んでいくもので、町田市の町内会・自治会について、授業という形で学ぶほか、学生が20時間以上かけて自治会の活動に入っていくものになります。

最後の授業ですが、学生が自治会の課題解決に向けて感じたことなどを自治会にフィードバックする機会を設けまして、協力していただく自治会にも連携のメリットといったものを享受していくような授業のつくりになっております。ボランティアやまちづくりで学生が自治会に入って活動することは以前にもありましたが、町内会・自治会そのものを学んだ上で地域活動を経験する授業は珍しい事例であると考えております。

また、今回の大学連携につきましては、地区の連合会が主体となって、単一の町内会・自治会に協力を依頼しております。今連合会から脱退する町内会・自治会もある中で、連合会に加盟しているからこそ大学と連携できるといったメリットを示していくいい機会になったのではないかと考えております。

もう一点につきましては、町田市のすぐ近くにあります八王子市の東京工科大学と連携した事業となっております。こちらもこれからの事業になるんですが、授業でアプリを作っていくゼミがありますので、地域課題というものを地域の方々に挙げていただき、それを解決するアプリを作れないかということで大学からお話を頂きましたので、今市が間に入りまして、地域のニーズと併せて実際に来年度事業がつかれないかということで検討している最中でございます。

以上です。

○地域活動推進課長 町田市さん、ありがとうございました。大学と連携して授業というところまでは、いろいろな区市さんは難しいかと思うんですけども、恐らく地域にあるそういうような教育機関とどうやって連携をしていくのかという非常に大事な取組で、我々のほうもこの大学の授業がどういうふうになったのかという報告を聞かせていただきたいと思います。ありがとうございました。

そのほか、サポーター制度を導入して、近所の若い方に協力を呼びかける制度ですとか、あとコミュニティスクールとの関わりの中で取組を進めていたというお話も頂いていますが、福生市さんからお話を頂ければと思うんですが、よろしいでしょうか。

○福生市 福生市の撰梅です。

皆さんのお話を聞く中で、顔と顔の見える関係、触れ合う、それから、地域に関心を持ってもらうという中で、すぐ町会・自治会に加入していただきではなくて、まず、地域に

関心を持ってもらうという中で、ふだん、地域の町会・自治会の会長または役員が、市内の小学校、中学校のコミュニティスクールの委員だったり、地域活動に関わって、その中で地域の見守りであるとか、それから、学校行事への協力等で、簡単に言うと、地域のおじさん、おばさんという関係をつくる中で、子供たちとの接点から、親が地域に関心を持ってもらい、町会・自治会に加入するというケースがあります。

今回の切り口として、私の発言は、加入世帯、住民以外の若者という形ですけれども、若者というと、23区の地域に比べると、都下の市では、若者の転入なり流入というのはまず少ないので、そういった中で、若者を地域の活動に巻き込むというのはなかなか難しいんですけれども、子供さん、特に小学校の関係から、親に地域に関心を持ってもらう。その中で、町会・自治会活動に関心を持ってもらうということが繰り返し役立つと思います。

あと一つ大切なのは、学校の活動というのは1年中あります。どうしてもお祭りという年1回とか2回なので、接点という点では、学校の行事で子供と関わるのが、保護者の方が地域に関心を持ってもらう絶好のチャンスだと思って活動しています。

以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。コミュニティスクールという制度も使いながら、どうやってその地域の学校と接点をつくっていくのか。特に我々のほうも事業の中で、子育て世代、30代、40代の世代の方とどうやって接点をつくって入っていただくのか、関心を持っていただくのかは非常に大事だと思っておりますので、今御紹介いただいた事例は非常に参考になりました。ありがとうございます。

以上で今回のアンケートの結果についての御報告は終わりにするんですが、事例ですか、何か御意見等ある会長の方はいらっしゃいますでしょうか。

○府中市 度々すみません。6ページのところに書いてあるんですけれども、ここで、前もお話ししたんですけれども、その結果が出たので、ドローンの件なんです。いろいろな規制があつてなかなかできないんですけれども、お子さんから中年まで、非常に興味を持っているんです。ただ、興味を持って、お遊びではいけないので、消防署と連携いたしまして、ドローンを約150メートル上空まで上げて、それから下がってくるというところをやりまして、地域の災害があるという前提で動画を撮るわけです。

その動画を撮ったのをどうするかというと、撮ったら、即オンタイムといいますか、同時に消防署のパソコンに画面が出るんです。消防署の人が言うには、4Kでこんなに安定した絵を見たことがない。聞いたら、これで災害状況の分析ができますかといったら、十

分できるということで、3月1日にやったんですけれども、大勢の子供が見ていまして、成功したと思っています。

ただ、今後どういうふうにやっていくかというのは、4Kの画面が出て、そこで分析する訓練をしておかないと意味がないので、今後も続けていきたいと思ひますし、もう少し大きな、風にも強い安定したドローンを購入するために、東京都の助成金を今考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○地域活動推進課長 承知しました。

以上をもちまして、アンケート結果の御報告は以上となります。ありがとうございます。まだございますか。どうぞ。

○葛飾区 9ページのその他のところで、まちの腕きき掲示板事業がありますけれども、ここで言う腕ききさんというのはどういう方たちを指すのかが分かりません。

○地域活動推進課長 ちょうど担当の東京都つながり創生財団の課長が来ているので、説明をしてもらいます。高城課長、お願いします。急に振りまして、すみません。

○東京都つながり創生財団 東京都つながり創生財団の高城と申します。

先ほどの荒川区さんの発表の中でも頂きました腕きき掲示板ですけれども、今14区市の皆様に使っていただいている取組で、腕ききさんというのがボランティアさんなのですが、御自身の特技とか趣味を生かしたボランティアの方です。その腕ききさんと、ちょっとしたことでお悩みの町会・自治会の皆さんとをウェブ上の掲示板でつなげるというような取組をやっております。

今14区市の皆様と一緒に取り組んでいますけれども、例えばチラシのデザインをお願いしたいとか、ホームページを作るのを手伝ってもらいたいとか、あと先ほど荒川区さんからありましたようなちょっとしたイベントに参加していただいたり、運営ボランティアを募集するようなことですか、あとオンライン上でLINE公式アカウントを作りたいんだけど、ちょっとだけ分からないから相談したいとか、いろいろな使い方ができるような取組として実施しているところでございます。

○大田区 大田区の神山です。

今までの中で、私のほうからお話ししたいのは、今、若者が各自治会・町会に加入というのは本当に難しいことだと思っております。そういう中で、PTAが町会に入ることが難しいのは当然なんですけれども、この前、1月、大田区の中で、小中PTAの幹

部職と会合を開きました。各PTAも地域の協力というのが少ないものですから、そこでいろいろ意見交換をしたんですけれども、PTAの方たちは、今少子化の中で、親が少ないということで、役員に成り手がいないというのが現実だそうです。そういう中だと、町会のお手伝いをしなくちゃいけないということはPTAの役員さんたちも分かっています。でも、町会に入って縛られる。こういうものが若者たちは嫌だ、そういう意見がすごく多かったです。

そういう中で、私たちの学校の中で、小学校、中学校の地域懇談会のときでも、いろいろなお話を出しました。例えばPTAが協力できないもの、中学生になると、それこそ我々よりも動きがいいし、活動も素早い。そういう人たちに何とか地域に協力してもらえないかということで、生徒会の会長、副会長、この方たちをお願いをしました。今こういうわけで地域はなかなか若い者の手がない。そこで、できれば中学生の皆さんに地域のイベント、こういうものに力を貸してくれないかと相談したところ、子供たちの言った言葉が、私たちは、ふだん日頃、町会でいろいろお世話になっております。そういう中で、町会の例えば協力ができるんだったら、喜んでさせていただきます、そういう声が上がったんです。私はすごくそのときはうれしかったです。

それで、実際に羽田のお祭り、このときに、子供が言葉をかけなくても、皆さん参加してくれました。それで、ちょうちんの飾りつけ、いろいろな作業の片づけ、こういうものまで全部子供たちに来ていただいてやっていただきました。PTAが協力できないものを子供たちは分かっているわけですから、その代わり私たちがやりましょうということでやってくれたんですけれども、そういう面はすごく助かりました。

この間の2月に、これは東京都さん主催の大田区のつながり広場、これはありがとうございました。この中で、いろいろ単地区から意見が出てまいりました。発表がありまして、その中で、地域とPTAのつながり、こういうものもなかなかお互いに言葉がかけづらい。そういうものもできない中におきまして、その地区の防災訓練、これがなかなか人が集まらない。

そういう中で、今回こういう発想をやろうと決まったのが、ハロウィンと防災訓練、これを1つにして、子供たちをみんな巻き込んだ防災訓練をやるということでやったところが、それが今までないぐらいの参加者があった。それはすごく喜んでいました。そういう中で、何か少し変わったものを取り入れて、町会のイベント、行事、そういうものに変えていけば、若者も少しは協力してくれるんじゃないかと思っています。

今私たちも、小学校、中学校にいろいろと話しかけをしています。できれば、町会の役員になるとか、そういうおやじの会を何とか巻き込もうと思って今やっております。その中で、町会の役員というと、おやじの会も縛られることが嫌だということですから、その代わり、何かあったらお手伝いします、こういう意見も出てきております。だから、これから私たちも学校を通して、そういう若手の皆さんに何とか協力していただいて、別に町会に入らなくてもいいと私は思っています。町会は町会で、ある程度の高齢になれば、嫌でも手伝って入ってきてくれます。

そういう中で、若い人たちが町会の我々ができないものをやっていただける。こういうふうにしていてもいいんじゃないかと思っております。私が気がついたのはその辺でございます。

以上です。

○地域活動推進課長 ありがとうございます。つながり広場のことも御言及いただきましてありがとうございます。PTAが難しかった生徒会、そのお子さんたちとうまく接点をつけたという例でした。ありがとうございます。

時間も限られているんですが、大丈夫でしょうか。では、最後に。

○北区 北区の鈴木と申します。

今話を聞いておりますと、いろいろな大学だとかそういうサークルだとか、また大学以外でもNPO法人だとか、そういうことがあると結構協力してもらいやすい。北区でも一応東洋大学が近くにありますので、その先生などがこういう町会に少しでも加盟をということではいろいろなサークルもやっていただいております。そういう生徒たちは、北区の何かお祭りがあったときだとかそういうときに結構手伝いに来てくれるんです。ただ単町会で考えますと、そういうサークルでもない、ただ住んでいるだけの学生だとか若い人たちがどうやって入ってもらえるか。それが一番の大きな課題だなと思っております。

北区でも、この頃外国の方が多く住むようになっておりまして、これは1ついい例だったんですけども、外国の方々というのは、集団をつくるというんでしょうか、北区ですと、ベトナムだとかミャンマーだとか、その人たちが結構多くその地域に集まるんです。それで、そこで住民とのトラブルなんかもありまして、夜間がうるさいとか、ごみ出しがあるとか、いろいろなことで、その中で、社会福祉協議会の人間が1人入りまして、その外国の方々の意見を聞きながら、区としては、こういう協力もできますという話から仲よくなって、そこの地域の町会長なんかを紹介されたんです。

そうしましたら、それから町会との関係がすごくよくなりまして、いろいろなお祭りだとかそういうときに、自分たちの国のいろいろなものを協力していただいて、集まってやっていただくとか、そういうような方向にもなっておりますので、何かきっかけがあるとうまく結びつけられるんじゃないかという気がするんです。

ただ、どうしても組織だとか大学のサークル、NPO法人だとか、またそういう外国の方々の集団があるので、そういう集団の1人、長でも、何かトップの方でも捕まえて話していくとスムーズにいくんですけれども、それぞれが自分たちの地域で住んでいる学生であったり、そういう人たちを町会に引き込むということが今単町会では問題になって、どういうふうにして取り組んでいくのか。できればそういうことを聞きたいなと思っておったんです。

○地域活動推進課長　ありがとうございました。どうやって取っかかりをつけるのか、どうやってきっかけをつくるのか、多分非常に御苦労されていらっしゃるのが多いんだろうなと思ってしまして、若者フォーラムでも、御発表いただいた学生の方に聞くと、では、地元に戻って町会活動はというと、そこまではという話も頂いていたので、その意味で、単一の町会さん、まさに地域の活動されている町会さんのほうに、今日の前にいる学生さんとか地域で住んでいる方に入っていたいただくのが非常に御苦労されているんだなと思いました。そこに対して、今日お話しいただいたようなイベントの取組ですとか、オンライン化の取組ですとか、いろいろな様々な方法を使いながら、どうやって接点をつくっていくのかというのが大事なのかなと、聞いていて思いました。

今日はいろいろな様々な区市の皆さん、御発表いただきましてありがとうございました。事務局からは以上となります。

○座長　それでは、時間も大分超過しておりますので、申し訳ございませんが、ここで本日のまとめとさせていただきます。

と申しまして、今ほとんど事務局のほうでまとめをしたようなもので、新たに付け加えることもないのですが、本日、まず最初のほうでは、新宿と立川でやりました「地域とつながる若者フォーラム」の概要を御説明してございまして、その場で、若い人たちの意見としては、入りづらいということがあるのと、あと一方で、実際にその地域に入って活動している若者の皆さんの声としては、もし楽しければ、実際にやりますという声もあるし、実際、地域の方と楽しんで自分たちの活動をやっているという例でございました。

その内容も、若い人らしいデジタルを活用したものが非常に多かったということなので

すが、確かに私も含めてデジタルはなかなか難しいんですけれども、逆にその辺は若い人に入ってもらって、自分たちの活動にデジタルを活かしてもらおうようなアイデアを出してもらおうというふうにしてもいいんじゃないかというのが、実はこの2つのフォーラムを聞いていて私が思った感想でございました。

続きまして、後半で、皆様からのアンケートについていろいろ御説明をさせていただいたんですけれども、ここに出てきた内容も、繰り返しになりますが、町会・自治会の活動が分からないから加入していないとか、メリットがないから加入していないとか、負担感があるから加入していない。要するに分かっていないから入っていないんだなという感じを持ったところでもございまして、メリットのPRですとか、活動内容の見える化ですとか、あと参加してもらいやすいイベントを仕掛けていくとかあるんだろうと思います。

いろいろな試みをやるにしても、一番は、顔の見える関係がつくれるかどうかで、それは今いろいろ御意見を伺っていて思ったのですが、それぞれの地域でそれぞれ、例えば学校があるとか、大学があるとか、あるいはNPOが活動しているとか、あるいは行政と町会・自治会の皆さん自体がもともとそういう若い人も入れた地域での活動を盛んにされているとか、いろいろなパターンがあると思いますけれども、顔の見える関係をつくっていく中で、子供さんと町会長さんが顔見知りになっている。子供さんが町会長さんの顔を知っているとかという関係をつくるとか、あるいは若い女性、お母さん方が入ってきやすいようなイベントを仕掛けるとか、そういった形で顔の見える関係をつくっていくということが、恐らく多くの皆さんから御発言いただいた内容の共通項として1つあるのかなと思いました。

そういった形できっかけをつくっていくという工夫をされることによって、若い人も入ってきやすいということになりますでしょうし、そこの入り方も、いきなり役員になってくださいではなくて、例えばイベントを手伝ってくださいとかという感じでの入り方というのが若い人からも受け入れられやすいんだなということが、いろいろ御紹介いただいた事例からもうかがえたような気がいたします。

皆様から様々な取組を御紹介いただいたところですが、ぜひこれからも若い人の加入促進を進めていけるよう努力をしていただければと思いますし、私ども東京都もそちらのほうを支援させていただきたいと思っておりますので、御協力お願いいたします。

私からのまとめは以上とさせていただきます。最後になりますけれども、何か御発言はございますでしょうか。

特になければ、最後になりましたが、副座長をしていただいております吉成会長から御発言をお願いいたします。

○副座長 副座長を務めております吉成でございます。

今日は、地域活動に関する検討会に参加を頂きまして、若者を巻き込む地域活動活性化の取組についてお話をさせていただきました。ありがとうございました。

皆様のお話の中には、電子回覧板を使ったデジタル化の取組や、創意工夫を凝らした若者が参加しやすいイベントの実施など、若者の参加促進に様々な工夫を凝らして取り組まれていることを再認識することができました。皆様の日々の御尽力に感心いたしました。私も参加した「地域とつながる若者フォーラム」で話したサポーター制度について紹介をさせていただきました。本日、紹介された事例やアンケート結果は、町会・自治会が若者を巻き込む地域活動活性化に取り組んでいく上でのヒントになると考えております。これからの活動に参考にいただければと思います。

今日はお疲れさまでした。

○座長 ありがとうございました。

それでは、これもちまして、本日の令和7年度第3回東京都地域活動に関する検討会を閉会いたします。皆様、御協力ありがとうございました。

次回の本会につきましては、現時点では未定でございますが、決まり次第お伝えいたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時48分閉会